

<p>令和元年 8月30日</p>	<h1>病虫害発生予報</h1> <h2>9月号</h2>	<p>茨城県病虫害防除所 茨城県植物防疫協会</p>
-----------------------	-------------------------------	--------------------------------

農薬中毒事故原因の No. 1 は農薬の誤飲・誤食です！
農薬をペットボトル等に移し替えてはダメ！

< 目 次 >

<h3>I. 今月の予報</h3>	
<p>【注意すべき病虫害】</p>	
<p>大豆：べと病，吸実性カメムシ類</p>	<p>1</p>
<p>サツマイモ：ナカジロシタバ</p>	<p>2</p>
<p>秋冬ネギ：ネギアザミウマ</p>	<p>2</p>
<p>【その他の病虫害】</p>	
<p>大豆，ナシ，ブドウ，果樹共通，抑制トマト，秋冬ネギ，夏秋ナス，共通害虫</p>	<p>3</p>
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	
<p> </p>	

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。


詳しくは、病虫害防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病虫害防除所 Tel : 0299-45-8200

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nosose/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

<HP QR コード>



I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

大豆

1. ベと病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、発病度*（本年値 6.6，平年値 4.9），発生地点率（本年値 54%，平年値 35%）は、ともに平年よりやや高い。

※発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病初期からの薬剤防除を徹底する。
② 薬剤は、薬液が茎葉によくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。
③ 発病程度は品種間差が大きく、「里のほほえみ」は、「タチナガハ」に比べて発病しやすい傾向にある。

2. 吸実性カメムシ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	平年並	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、吸実性カメムシ類の25株あたり寄生虫数（本年値 0.4頭，平年値 0.5頭），発生地点率（本年値 23%，平年値 25%）は、ともに平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 薬剤散布は、莢伸長期以降、発生に応じて7～10日ごとに複数回行う。
② 成虫は子実を加害しながら、葉や莢に産卵する。卵からふ化した幼虫も子実を加害しながら成長するため、幼虫の発生状況にも注意する。
③ 薬剤散布の際は、葉裏や莢にも薬剤がかかるように丁寧に行う。特に、圃場の周縁部は生息密度が高い傾向にあるため注意する。

サツマイモ

1. ナカジロシタバ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在、被害つる先率（本年値 22.4%，過去 8 年平均値 16.8%）はやや高く，発生地点率（本年値 60%，過去 8 年平均値 62%）は平年並である。
- ② 8月下旬現在，100 葉あたりの寄生虫数（本年値 1.4，平年値 1.7）は 11 年中 2 番目に多く，平年よりやや多い。発生地点率（本年値 60%，平年値 28%）は平年よりやや高い。

[防除上注意すべき事項]

- ① 老齢幼虫になると薬剤の防除効果が劣るので，若齢～中齢幼虫の時期（つる先，上位葉に丸く穴の開いた葉が散見される時期）の防除に努める。例年 9 月に被害つる先率が増加するので，早めに圃場を観察し防除適期を逃さないように注意する。
- ② 薬剤散布の際は，幼虫が生息する葉裏までよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。

秋冬ネギ

1. ネギアザミウマ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 8月下旬現在，被害度^{*}（本年値 47.9，平年値 45.4）は平年並～やや高く，芯葉の被害株率（本年値 97.8%，平年値 88.6%）は平年よりやや高い。
※被害度：食害の程度をもとに算出した数値，最小値は 0 で最大値は 100 となる。
- ② 気象予報によると，向こう 1 か月の気温は平年より高いと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 雑草にも寄生するため，圃場周辺の除草を徹底する。
- ② 薬剤散布は必要に応じて展着剤を加用し丁寧に行う。また，薬剤抵抗性の発達を抑えるため，IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
大豆	紫斑病	発生量：－	防除適期は開花期の 20 日後頃である。開花期から成熟期までに連続した降雨がある場合は、開花期の 30 日後に追加防除を行う。
ナシ	黒星病	発生量：－	8 月下旬現在， 平年並～やや多い発生である。多発した圃場では，秋季防除を徹底する。特に，徒長枝の先端まで薬液が十分かかるように薬剤散布を行う。
	ナシヒメシクイ	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。早生・中生品種に被害果が目立った場合は，晩生品種を対象に，収穫前日数に注意して薬剤散布を行う。
	ハダニ類	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。多発している圃場では， 秋季， 休眠期および翌春の防除を徹底する。
ブドウ	さび病	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。病原菌の越冬を防ぐため， 落葉処理を徹底する。
	べと病	発生量：平年並 ～やや少ない	8 月下旬現在， 平年並～やや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため， 落葉処理を徹底する。
	褐斑病	発生量：やや少ない	8 月下旬現在， 平年よりやや少ない発生である。病原菌の越冬を防ぐため， 落葉処理を徹底し， 粗皮はぎを行う。
	晩腐病	発生量：－	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。病原菌の越冬を防ぐため， 罹病した果梗の切り残し， 巻きひげ等は剪除し， 適切に処分する。
共通果樹	カメムシ類	発生量：平年並	8 月下旬現在， 平年並の発生である。
トマト抑制	黄化葉巻病	発生量：平年並	8 月上旬現在， 平年並の発生である。発病株はただちに抜き取り適切に処分する。促成トマトの育苗において，媒介虫であるタバココナジラミの侵入防止対策を徹底する。
ネギ秋冬	ネギハモグリバエ	発生量：やや少ない	8 月下旬現在， 平年よりやや少ない発生であるが， 従来よりも食害量が多い別系統が発生しているので注意する。
ナス夏秋	タバココナジラミ	発生量：やや多い	8 月下旬現在， 平年よりやや多い発生である。
共通害虫	オオタバコガ	発生量：やや少ない	8 月下旬現在， 直近 1 か月間のフェロモントラップへの総誘殺数は平年よりやや少ない。
	ハスモンヨトウ	発生量：－	8 月下旬現在， 直近 1 か月間のフェロモントラップへの総誘殺数は， 県南地域の一部でやや多い。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 8月31日から9月30日)

気象庁(8月29日発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	10	30	60
	降水量	関東甲信全域	30	40	30
	日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[概要]

天気は数日の周期で変わるでしょう。

<1週目の予報> 8月31日(土曜日)から9月6日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<2週目の予報> 9月7日(土曜日)から9月13日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率60%

<3週目から4週目の予報> 9月14日(土曜日)から9月27日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並または高い確率ともに40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬の「ラベル」と登録変更に関する「チラシ」等を必ず確認し、適用作物、使用方法、注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には、周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、作用機構分類* (FRACコード、IRACコード)の異なる薬剤を用いてローテーション散布しましょう。
※作用機構分類については、病虫害発生予報5月号(平成31年4月25日発表)の防除所レポート参照
- 5 農薬の使用後は、散布器具やホース内等に薬液が残らないように良く洗浄しましょう。